

共に

塩尻市生涯学習部男女共同参画課

塩尻市大門七番町4番3号

TEL：(0263) 52-0280 内線3151

FAX：(0263) 54-2705

Eメールアドレス：kyoudou@po.city.shiojiri.nagano.jp

イクメン×インタビュー

時代の変化とともに、育児等に積極的に
参加している男性が増えてきました。

男女が共に協力しながら、いろいろな活動に参画
していく社会をめざす一歩なのかもしれません。



親子でにぎわう塩尻市こども広場「あ・そ・ほ」

※イクメン（育MEN）：育児に関心を持って、育児を積極的に楽しむ男性



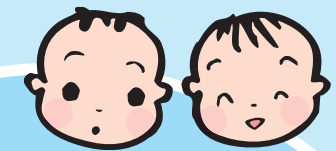
男女共同参画



内閣府男女共同参画局では、男女共同参画のシンボルマークを作成しました。
このシンボルマークは、男女が手を取り合っている様子をモチーフにし、互いに
尊重しあい、共に歩んでいけたらという願いを込めています。



こども広場のイクメン(育MEN)家族



30代ご夫婦（広丘高出在住）
お子さん：双子の女の子（1歳）

Q イクメンという言葉を知っていますか？

（パパ） 知っています。

Q お父さんは育児に協力的ですか？

（ママ） はい。とても協力してくれています。
双子なのでやらざるを得ないんですけどね…（笑）

Q お父さんのイクメンぶりはどうですか？

（ママ） おむつ替えや、子どもの洋服を着せたりしてくれます。家事にも協力的で、料理以外のことはやってくれます。

Q 会社に育児休業制度はありますか？

（パパ） ありますが、男性は取得していないと思います。

Q 育児休業を取りたいと思いますか？

（パパ） 気持ちはあるけれど、現実には厳しいと思います。



40代と30代のご夫婦（宗賀在住）
お子さん：女の子（6歳）、男の子（1歳）

Q イクメンという言葉を知っていますか？

（パパ） あまり知りません。

Q 普段はどんなことをされていますか？

（パパ） 子どもと遊んだり、おむつを替えたり、食事作り、掃除など全般をやっています。

Q そのことに対して、お母さんはなんとおっしゃっていますか？

（パパ） 「助かるわ」と言ってくれています。

Q 会社に育児休業制度はありますか？

（パパ） あります。ただ、男性は取得していないと思います。

Q 育児休業を取りたいと思いますか？

（パパ） どうかなあ…？

Q ためらう理由はなんですか？

（パパ） いろいろありますが、家庭内でのバランスもあります。妻が家のことをするのが好きなので、自分が外に出て働く方が、家庭内のバランスがうまく保てると思います。



足助さん親子：とても仲良かったです！

足助 浩信さん(38歳) 利香さん(39歳)
心音ちゃん(5歳) 春翔ちゃん(1歳)
(広丘野村在住)

Q イクメンだと思いますか？

（パパ） イクメンだとは思っていません。

Q どんなことをされていますか？

（パパ） 交代勤務のため、平日も休みがとれるので、そのときは子どもの世話をしています。普段も、掃除、洗濯、料理などを手伝っています。

Q 会社に育児休業制度はありますか？

（パパ） あります。男性で取得した人はいないと思います。自分自身も取っていません。ただ、出産休暇があるので、それは5日間取得しました。その間、妻の病院へ行ったり、上の子の送り迎えをしたりしていました。

Q お父さんに他にどんな協力をしてほしいですか？

（ママ） 十分手伝ってもらっていますし、おじいちゃん、おばあちゃんもいるので、今のままで十分です。

とても仲の良いご家族でした。お父さんが家のことをとてもよくやってくれていると話されたお母さんの幸せそうな顔が印象的でした。

30代ご夫婦（松本市在住）
お子さん：女の子（4歳）

Q イクメンという言葉を知っていますか？

（パパ） 名前は知っています。

Q 普段は、どんなことをされていますか？

（パパ） 子どもの相手をしたり、休みの日には、ご飯を作っています。おむつ替えも当たり前に行っていました。

Q そんなお父さんをどう思いますか？

（ママ） 100点満点です！今できることは、やってもらっている。平日、早く帰ってきてほしいと思いますが…。

Q 会社に育児休業制度はありますか？

（パパ） あります。育休も取れるなら取りたいと思いますが、男性が取る雰囲気はないです。仕事は、自分がいなければいけないので何とかしたいと思います…。



こども広場：塩尻市大門一番町7-1
ウィングロードビル3F
0263-53-6660
利用時間：10：00～18：00
休館日：水曜日

日本女性会議 2010 きょうと

参加報告

飯森 悦子

日本女性会議が昨年10月1日(金)、2日(土)と京都で開催されました。

大会のテーマに「ひとりひとりが輝く、色彩あふれる世界へ」を掲げ、性別に関係なく個性を十分に発揮し、互いに認め合う色彩豊かな世界をつくるための道筋を、次代を担う若者とともに考え、発信するというものでありました。

私たちは、第8分科会の「京都発—市民ぐみの人づくり— 大人による、子どもが健やかに育つ環境づくり」に参加しました。

コーディネーターやパネリストは、「人づくり21世紀委員会」のメンバーの方々と、子どもたちのために、今、大人として何ができるかを論点に討論がなされました。

最初に、スポーツコメンテーターの奥野史子さんより、シンクロナイズドスイミングの話があり、「井村コーチは人が好きでシンクロが好きという情熱の持ち主で信念がぶれなく、叱りながらたまに褒めるという指導をしてくれた」また、「家族は黙って協力してくれ、オリンピックの後で、多くの人が支えてくれたことに気がついた」とのことでした。

さらに、「『ありがとう』の言葉は大事で、近所のおばちゃんや人との関わりなど、いい人間のネットワークをつくるのが大切であり、感謝の気持ちがないとできない」

「子どもは社会の宝であり、社会、地域全体で育んでいかなければならない」などの話もありました。

パネルディスカッションでは、奥野史子さんから「コミュニケーション力の低下」、西脇悦子さん(京都市地域女性連合会会長)からは、「ハングリー精神の欠如」の指摘があり、尾池和夫さん(財団法人国際高等研究所所長)からは、「今

どきの学生は廊下ですれ違っても、ものを言わないが、メールはよくだす。なぜ直接話してくれないのか分からない」と疑問が出されました。

また、長屋博久さん(京都市立御所南小学校PTA会長)からは「地域の親の交わりとして、PTAとは別に『親父の会』がある。校庭にテントを張りキャンプをしたり、ただ飲むだけのグループもあり、型にはまらないフランクな活動をしている。多様な活動をとおして子どもたちの成長を見守り育むことが大事ではないか」などの意見が出され、家庭や地域、企業などがいろいろ努力していることが強く感じられました。

2日目は、イベントホールで、基調報告が内閣府男女共同参画局長の岡島敦子さんからありました。

政府では、「第3次男女共同参画基本計画を本年中に策定すべく、検討を行っている」ことや、「女性と経済活動」についての説明がありました。

また、「男女共同参画を実現するためには、政府の組織はもとより、地方公共団体、民間団体、さらには国民一人ひとりが自らの課題と認識し、共に連携しながら取り組んでいかなければならない」と話されました。

課題は多くあると感じましたが、とても素晴らしい基調報告でありました。

今回の参加を、今後の男女共同参画社会実現のための活動にいかしていきたいと思います。



相談の案内

お気軽にご相談ください

- 塩尻市女性相談 0263-54-0783
月・水・金 9:00～17:00
- 塩尻警察署(生活安全課) 0263-54-0110
- 県松本保健福祉事務所(松本合同庁舎) 0263-40-1914
- 県女性相談センター 026-235-5710
- 県男女共同参画センター(あいとびあ) 0266-22-8822
- 児童虐待・DV24時間 ホットライン 0263-91-2410

編集後記

今回の取材を通して素敵なイクメンたちに出会いました。育児の楽しさや辛さを夫婦で共有しあい、笑顔あふれる家族が増えることを願ってやみません。

小林 道代

最近イクメンという言葉を目にする様になりました。子どもとかかわりを持つことは、両者にとっても良いことだと思います。イクメンがもっと増えてくれればと思います。

小松 浩子

少子高齢化に伴い、老老介護といわれる現在、仕事・育児・介護と男女が共に協力し、助け合うことの大切さを、編集に携わることで学ばせていただきました。

中野香代子

インタビュー当日、こども広場は『イクメンさん』でいっぱい!

子育ては一緒にするのが当たり前の世界でした。少子化問題にも少し希望が持てました。

川上 博昭